

ススメ！沖川探検隊♪

～歴史のロマンあふれる魅力的な地域～ 沖川小学校

沖川小学校の校区は農村地帯で、お店も少なく、とても静かな地域です。名所も陣屋の桜くらいで、春先以外は地域外から訪れる人も数少ないです。

しかし下の写真をご覧ください。これは、校舎の中庭にひっそりと建っている開校百周年の記念碑です。最初は気に留めていなかったのですが、よく見ると「内閣総理大臣 大平正芳」と彫り込まれていました。調べてみると校長室に直筆の書面もあり、学校の百周年のお祝いとして、わざわざ書き送っていただいたようです。

考えてみると、本校は明治12年に開校した、北斗市内でも有数の歴史のある学校です。当然、地域の歴史も古く、記録では文亀元年（1501年）頃には、定住した人がいたそうです。

この事実を知り、私たちは地域の歴史と魅力を再発見しようと、総合的な学習の時間（ふれあいタイム）などを利用して取り組んでいます。その中で発見した内容の一部をご紹介します。

○ふしぎなお家？



遊び場のすぐ側ですが、誰も気づきませんでした！

学校前の道道から、上磯ダム方面に曲がるとすぐ、ちよつと目を引く外観の建物があります。老朽化が進み、現在は地元の建設会社の作業場として使われています。所有者の方に聞くと、少し前までは、わざわざ車を止めて写真を撮っていた人もいたそうです。

資料などは残っていなかったのですが、地域の方々に聞いてみると、函館のとある大企業の保養施設（別荘？）として建て

られたものだそうです。その後、所有者が変わり、一時はそろばん教室としても使われていました。沖川小学校の卒業生にとっては身近な建物だったようです。洋風な外観ではありますが、所々に和風の装飾が施されており、往時の面影が感じられます。



春の遠足で上磯ダムに行く時に、目にしていた建物の正体は…



○郵便屋さんの休憩所？

清川簡易郵便局は、地域住民の憩いの場になっています。しかしここはもともとと商店に併設されていた、郵便屋さんの休憩所でした。車がまだ希少な時代、徒歩で活躍していた郵便屋さんの貴重なオ

アシスだったようです。今では商店も少なくなりましたが、子どもたちに社会体験をさせていただけの貴重な場として、沖川小学校はいつもお世話になってます。



今も昔もお世話になっています！

○そもそも「沖川」とは何ぞや？

付近に「沖」のつく地名はありません。他校のように、地域の一字ずつを合わせた校名ではありません。ずっと気になっていたのが、郷土資料館の方にお聞きしました。

本校は開校時「濁川小学校」という名称でした。そして、濁川村と清水村が合併して清川村になった時期に、近隣の中野村と協議して、「清」の（さんずい）と「中」を合わせて、「沖」にして、沖川小学校と名付けることになったそうです。

まだまだ、奥深そうな沖川の歴史。さらに調べてみる価値は、十分ありそうですね。

（沖川小学校 教諭 菅原 圭一）